

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2015. 5
No.261

報連相も仕事

「報告・連絡・相談」は大変重要な仕事です。

これでその人が“できる人”か“切れる人”かが決まると言っても過言ではありません。

上司としては、部下が何を考え、どこに行こうとしているのかは、この「報連相」で判断できます。

また、部下の能力もわかります。

何がわかっていて、何がわかっていないのか。そ

して、何を導いてあげれば、その部下は育つのか。

まさしく今年のテーマ『育』です。

「報連相」のない部下は育てようがないし、その上司はやがて「不安」になり、最悪は、「不信」になってしまいます。

また、「報連相」は『フェイスTOフェイス』が基本です。“メール”ではダメです。

フェイスTOフェイスは、イナテックの企業理念の基本となるものです。

ところで、「業務日報」がありますが、あれは、あくまで「日報」であって「報連相」ではありません。勘違いしないでください。

最後に、「報連相」は部下から上司に行うものです。

上司から部下への「報連相」はあり得ません。

上司からは「指示・命令・指導」です。

ですから、「報連相」は部下から上司へ毎日必ず行わなければならないということです。

『報連相は毎日の仕事です』

報連相で賃金をいただいているといつてもいいでしょう。

ずいぶん前のメッセージにも書かせていただきましたが、最近また、この“ゆずり合う心”が気にかかるようになりました。

・車の割り込み

・エレベーターや電車などで、まだ降りる人がいるのに、我先にと乗ってくる人

心が乾いてきているせいでしょうか。相手の方の気持ちを思いやる心“仁”がなくなってきたからでしょうか。少しゆとりを持ってゆずってあげると気持ちの良いことがわかりいただけます。

勘違いしてはいけないのは、反対に「遠慮のかたまり」になってしまうことは、あまり美しいものではないということです。ゆずるタイミングとというのは難しいですが、「遠慮のかたまり」にならないよう“ゆずり合う心”を気持ち良く使いこなしましょう。

幸福とは

致知2015年5月号に載っていました「アラシが教える人生訓」を読ませていただいた勉強になったことです。

ゆずり合う心

世界の三大幸福論の一つに数えられるフラン
スの哲学者・アランの『幸福論』に、幸福への指
針が示されています。

「幸福になりたいと思つたら、そのために努力
しなければならぬ。無関心な傍観者の態
度を決め込んで、ただ扉を開いて幸福が入っ
てくるようにしているだけでは、入ってくるの
は悲しみでしかない」

「幸福は行動のなかにしかない」

「幸福はいつもわれわれの手から逃げていく
といわれている、人からもらう幸福については、
それは正しい」「人からもらう幸福などまった
く存在しないからだ。しかし自分でつくる幸
福というものは、決してだまさない。それは
学ぶことだから。そして人はいつも学んでいる。
知ることが多ければ多いほど学ぶこともま
ます多くなるのだ」

「幸福は与えられるものではなく自分の意志
と行動によつてつくりだすものである」

さあ皆さん、自分で、自分から行動しましよ
う。そうすれば幸福を作り出せます。

“木鶏同好会”

2015年3月のイナテック社員さんの木鶏
感想文をご紹介します。

『テーマはちがえども、仕事にどう生かすか
ということを具体的に聞くことで、その方々が

どんな業務にたずさわっているかや、どんな苦
労があるのかを垣間見る位事ができ、それが私
にとつて、とても新鮮で興味深い事でした。この
短時間では全然足りませんでした。同じ会社で
それぞれの役割があり、仲間であるのに知らな
い人や知らないことがたくさんあります。これ
からも木鶏会に参加し、会社や仲間のことを
知り、知識を深めていこうと決めました。』

二四

色慾火熾、而一念及病時、便興似寒灰。名利飴甘、而一想到死地、便味如嚼蠟。故人常憂死慮病、
亦可消幻業而長道心。

色欲は火のごとく熾^{さか}んなるも、而も一念、病時に及べば、便ち興^{おこ}は寒灰に似たり。名利は飴^{あま}のごとく甘きも、而も一^{ひと}想、死地に到れば、便ち味^{あじ}は嚼蠟^{くわくろう}の如し。故に人常に死を憂え病を慮^{おぼ}らば、また幻業^{まぼろし}を消して道心を長ずべし。

一 寒灰——火の消えた灰。二 一想——ひとたび思い出す。三 死地——死ぬとき。四 嚼蠟——ろうをかむ。味気ないたとえ。五 幻業——幻のような行ない。色欲名利をさす。「業」は、しわざ。

色欲は火のように燃えさかるものであるが、その時、ひとたび病気のときのことを思い浮かべたならば、たちまちその欲望も興ざめて、冷えた灰のようになるであろう。また、名利はあめのように甘いものであるが、その時、ひとたび死ぬときのことを思い浮かべたならば、たちまち、その欲望も興ざめて、ろうをかむように味気なくなるであろう。そこで人間としては、常に死ぬときのことを思い、病気のときのことを忘れなかつたならば、色欲名利のごとき仮幻のしわざに感^あわされることもなく、求道の心を持続することができる。